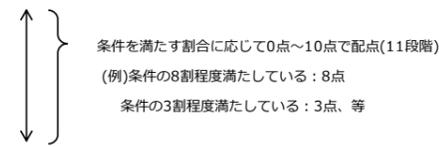


基本項目	詳細項目	配点	小池 ゆりこ	うつみ さとる	石丸伸二	ドクター・中松	安野 たかひろ	清水国明	福本 繁幸	田母神としお	蓮舫	小池ゆりこ（2020）	小池 ゆりこ(2016)
			①理念	ありたい姿があるか ありたい姿を目指す理由が示されているか 地域の課題を踏まえた内容になっているか	10	5.0	1.0	4.0	1.0	7.0	3.0	2.0	2.0
②政策の一貫性	政策が体系化されているか 矛盾する政策がないか 地域事情にあった政策があるか	10	4.0	2.0	4.0	1.0	7.0	3.0	2.0	2.0	4.0	2.0	3.77
③政策の具体性	政策が具体的な内容になっているか 政策の内容は、実行可能なものか 政策の達成度の事後検証は可能か	20	4.0	2.0	3.0	1.0	5.0	3.0	1.0	3.0	4.0	3.0	4.13
④市民起 点度	読みやすい工夫がされているか マニフェストを周知するための工夫がされているか マニフェストに市民の声を取りこむ努力をしたか	10	4.0	2.0	4.0	1.0	6.0	3.0	2.0	2.0	4.0	4.0	3.03
計		50	17.0	7.0	15.0	4.0	25.0	12.0	7.0	9.0	16.0	12.0	14.66
100点に換算		100	34.0	14.0	30.0	8.0	50.0	24.0	14.0	18.0	32.0	24.0	29.32
コメント	<p>3期目への挑戦の今回は「世界で一番の都市 東京」を掲げ、政策を展開している（東京大改革3.0）。これまで2期の実績もビクトグラムで表し、実績の変化を分かりやすく伝えている。また、その実績を踏まえて3期目の政策が作られていることも頷ける。SNSや動画配信等も活用し自身の主張や活動状況等を伝える工夫もみられる。ただ、現職という点や次が3期目という点から考えると、現状の東京の問題点や将来への課題、政策の狙いや根拠を丁寧に具体的に知らせる必要がある。「世界一の都市」とは何が世界一なのか？（あるいは、どういう状態か？）。政策も項目の羅列に留まっている点やキャッチフレーズが先行している点は残念だ。実現可能性や人口減少時代の首都のあり方や方向性も見えづらい。</p> <p>現状に対する問題意識をもとに5本の政策が示されているが、まず、どのような首都東京を目指しているのか、そのビジョンが示されておらず、いくつかの分野での取り組みが書かれているにとどまっている。また、東京都だけで実現可能な政策とは言えず国との調整が必要なもの、そもそも国の政策のものもあり、示している政策の実現可能性にも疑問が残る。</p> <p>安芸高田市長という地方自治体の首長経験者でありながら、先ず東京のビジョンが示されていない点は残念だ。東京の問題点と可能性を網羅したビジョンが示され、そのビジョンを実現するための政策という体系立てた展開が大都市である東京には何より必要ではないだろうか。しかし、他の候補者には無い「46道府県との協調・協働」という政策が示されている点は、首都東京としての役割を果たしているという意欲が感じられる。それだけにホームページで記されている「東京はもっと伸びるはず」というところを具体的に示すことが期待された。</p> <p>候補者自身の経歴や実績が中心に書かれたマニフェストである。自身の発明による社会課題解決に向けた取り組みが示されているが、具体的な内容が示されておらず実現可能性は未知数。東京ではなく他の道府県に置き換えても通じる内容であり東京都としての課題分析も足りない。</p> <p>「誰も取り残さない東京」という将来都市像を描き、現在の東京の問題点や課題を数値で具体的に示し、その解決策について政策を示している。政策を実現するためのシナリオや財源根拠等が示されていないため実現可能性は未知数であるが、現状分析から政策立案しているところは東京の具体的な課題にリーチしており体系だてられている。マニフェストも参加型としており、都民の声をどんどん吸収しながらアップデートされていくという内容は非常に面白い。</p> <p>「安全を取り戻す」、「成長を取り戻す」というキャッチフレーズがあり、安全・透明性・支援・こどもの4つに分類して政策の柱を掲げている。特に防災とガラス張りの行政の実現については詳しく図を用いて説明されている。しかし、そもそも東京をどのような都市を目指して都政を運営するか、そのビジョンが見当たらない。ご自身の経歴を活かした政策も防災に留まらず教育や住環境整備等、幅広く展開できそうだが、それらの政策の広がりが乏しいのは新人候補者としては残念だ。SNSと連動した情報発信をしているが、ホームページを見つけるのも困難であった。自身の主張や活動状況を積極的に伝えていく工夫にも取り組んでほしい。</p> <p>ご自身の経歴や経歴を基にした問題意識から組み立てた政策だが、どのような東京を創造したいのか全体の将来都市像が示されていない。東京都だけでは実現できない国としての政策も一緒に書かれているが、いくつかの東京都としての政策も見られる。しかし、選挙のことを書いているかと思えば交通マナーの啓発が書かれているなど政策が体系立てられているとは言えない。動画やSNS等を活用し広く伝えようと工夫されている点は評価できる。</p> <p>東京都知事選挙というよりは「日本」という国を変革していくことを強く意識しているように受け止める。自身のホームページの中にも「都知事選特設サイト」とあるが、掲載されている内容は日本全体へのメッセージ中心となっている。ただし、選挙公報では「東京から日本を力強く変えていこう」というキャッチフレーズの基、5つのマルとして都の政策が掲げられている。ただし、実行体制や予算など実現可能性については触れられていない。ホームページでは動画を掲載しており、その中で自身の主張を配信していることに加え、Xを活用して活動状況等を伝える取組をしている点では工夫が見られる。</p> <p>「あなたと次の東京へ」というキャッチフレーズがあり、2大重要政策が「若者支援」と「ガラス張りの行財政改革」を掲げている。ホームページ等では東京都の現状（課題点）が掲載され、それに対する解決策が示されている。動画配信やSNS等を活用し自身の主張や活動状況を伝える工夫もされている。ただ、「次の東京」の姿がどのような姿をイメージしているのかは明確ではない。新しい東京、新しい未来などの言葉は踊るが、何が新しいかは示されていない。ビジョンが不明確なうえ、数値目標や激減した都の財政調整基金を含む財源に触れられていない点は不満が残る。「都民の暮らしを守る」「都民と一緒に決める」というメッセージはあるが東京の将来ビジョンが語られていない点も不十分である。</p> <p>今回は2期目の挑戦となり「東京大改革2.0」がマニフェストとなる。前回選挙で「東京大改革宣言」というスローガンを掲げたマニフェストを発表したが、その成果の検証が示されないまま今回の選挙に臨む点は残念である。「実績」として都知事任職4年間の都政の成果を数値とビクトグラムで表している点は非常にわかりやすいが、前回マニフェストとの関連がみえれば尚よかった。今回のマニフェストだが、項目だけを羅列したアジェンダの域にとどまっいて具体性に欠ける。また、数値目標や激減した都の財政調整基金を含む財源に触れられていない点は不満が残る。「都民の暮らしを守る」「都民と一緒に決める」というメッセージはあるが東京の将来ビジョンが語られていない点も不十分である。</p> <p>「東京大改革宣言」というスローガンを掲げているが、なぜ大改革が必要なのか問題が指摘されていない。五輪に関しても「関連予算・運営の適正化」の記載のみで、ありたい姿がない。また、政策ごとに、理念は書かれているが、諸施策の根拠が不明である。実行手段が不明確なため実現できるのかどうかも懸念される。フェイスブック等を活用し細かく情報を発信している点では、伝えようという姿勢が伝わってくるが、図やイラストなどを使うとさらに効果が上がるのではないかと。</p>												

10点・・・・・・・・条件を満たしている



0点・・・・・・・・条件を満たしていない

※「③政策の具体性・実現可能性」は2倍の配点

※複数名によるチェックを行い、その平均点を得点として記載した

<全体コメント>

新型コロナウイルスによる活動制限の時期を終え、これからの4年間はこれまでの我慢してきた政策や現状対応を優先せざるを得ない政策から一転し、攻めの政策実施ができる社会背景へと移行している。日本の首都東京としての役割を担う政策や人口過密の地域ゆえに表面化しないものの現場に拮がっている地域課題などへの解決策にも期待したところであった。しかし、今回の都知事選挙における各候補者が出した公約は、生煮えの状態であり、とても事後検証可能な選挙公約（マニフェスト）とは程遠い。都知事選の日程は事前に決まっていたため、立候補を予定している者は、それなりに準備期間はあったはずだ。それに関わらず、都市のビジョンが示されず、政策も項目を並べるだけのキャッチフレーズに留まり具体性に欠ける。よって、主権者は実現可能性を想像することもできない。今回、主権者が政策で選択しようとした際には差別化を図るのが非常に難しい状況だ。東京都は年間約13兆円の予算規模を誇る世界の中でも大都市である。そのリーダーを決める選挙のマニフェストがこの程度では主権者は目を覆いたくなるだろう。今回の選挙が立候補者の知名度頼みで政策は二の次にされている感否めない。厳しい言い方をすれば、立候補者（各選挙陣営）は主権者を馬鹿にしているさえ見える。まだ選挙期間が残っているため、今後の選挙運動の中で、立候補者が考えるビジョンや政策を具体的に主権者に示していただくことを期待したい。